

新しい司法書士像を求めて

# ザ・フォーラム

《季刊》2011.1 **No.85**

発行

司法書士・行政書士  
丹羽正夫事務所

〒461-0017  
名古屋市中区東外堀町32  
番地 鈴木ビル4F  
TEL 052-962-9693  
FAX 052-962-9633  
E-mail info@niwaoffice.com  
URL http://www.niwaoffice.com/

登記・法律問題など、  
お困りのことがござい  
ましたら、お気軽にご  
相談ください。



## 格差について考える

司法書士 丹羽正夫

### 一 格差（階級）社会という現実

過日、英国ウイリアム王子婚約のニュースが報道された。相手は、中流クラス上の家庭のケイト・ミドルトンさんとのこと。英、仏、印度の各国は階級社会であり、米・中国は格差社会である。世界の多くの国が、階級（格差）社会である。

### 二 日本社会での格差

日本では、階級社会を経て、高度経済成長期の後期に一億総中流といわれたときもあつたが、二〇〇五年頃から、格差が目立ってきている。自由競争・適者生存の是非はともかくとして、勝者・敗者の格差の存在を承認する風潮が生まれてきている。日本は、戦後、歴史も社会的背景も異なる、米国の文化・制度の追随・模倣により進歩してきた。しかし、これから先もそのような姿勢でよいのか。

### 三 日本社会のもう一つの格差

日本社会のもう一つの格差は、世代間格差である。国の借金、税・年金等の負担、雇用・普通のライフスタイルの機会について、世代間の格差が生じている。また、今後、社会制度・精神文化後退のほころびを、どう修復するかも問題となる。

このような意味で、社会経験の長い大人たちは、多大なマイナス遺産（財政的・精神的・

### 制度的負債）を、次世代に残してしまおうと

している。大人たちは、多数決の論理に便乗して、人の営みよりも目先の利益を優先してしまった。また、人口の波の構造的変化とその衝撃への備えをしてこなかった。大人たちには、当面の課題として、大人としての見識・あり方が、問われている。

また、若者には、人の歩みについて長期的視点で、たとえば、一〇〇年前と今とを対比して、社会・文明文化の進歩を見届ける見識をもってほしい。紆余曲折を繰り返しながら、わずかずつ進歩してきたのが、人の歴史である。さらに、社会生活上、生死にかかわることとでなければ、若さという特権を活かして「禍を転じて福となす」という、しぶとさと遊び心をもつとよいと思う。

### 四 社会的格差（階級）への対応

国際社会においては、格差・階級を容認する流れも強い。日本では、自国において、これを容認するのか、しないのか。欧米、中国に追随するのか、独自の理念を世界に広めることを選択するのか、あるいは追随しつづきさやかな独自性を残す道を選ぶのか。

なお、格差（階級）が、深刻な紛争の種となることは、歴史的事実である。